

在宅医療・介護連携推進懇談会
議事録

日 時	平成30年6月19日（火） 13時30分から
場 所	瑞浪市役所西分庁舎 会議室
出 席 者	座 長：勝股 真人 委 員：和田 喜美夫（欠席） ・ 水野 照久 ・ 山田 秀樹 ・ 田中 佐江子 ・ 垣本 淳志 ・ 久保寺 由美 ・ 小倉 みゆき ・ 伊藤 明芳 ・ 石田 洋平 ・ 小山 貴広 事務局：加藤 誠二（民生部長） 藤本 敏子（地域包括支援センター所長） 小木曾友美（地域包括支援センター介護支援係長） 渡邊 愛加（地域包括支援センター介護支援係）

次第

1. あいさつ
2. 自己紹介
3. 座長選出
4. 議事
 - (1) 在宅医療・介護連携推進事業について
 - ①背景と事業の内容について
 - ②これまでの取り組みについて
 - ③平成30年度の取り組みについて（事業予算）

【事務局】 議事（1）在宅医療・介護連携推進事業について
①背景と事業の内容について説明

【意見】 特になし

【事務局】 ②これまでの取り組みについて説明

【意見】 特になし

【事務局】 ③平成30年度の取り組みと事業予算について説明

【意見】 特になし

(承認)

【事務局】 専門研修について、何か行いたいテーマなどがありましたらお聞かせください。

【事務局】 平成27年度からの研修を振り返りますと、多職種連携や地域包括ケアがベースになっており、在宅医療や口腔保健をテーマとして取り上げられています。在宅で生活している方、特にお一人暮らしの方で、認知症を患っている方は、お薬の管理がなかなかできず、支援者が悩むケースが多々見受けられます。支援者側の学び、スキルアップとしての研修を開催してみるのはいかがでしょうか。ご意見をお願いします。

【山田委員】今年度薬剤師会では、県からの支援を受け、「残薬回収バッグ」という活動を検討しています。瑞浪市の薬局に残薬を入れるカバンを用意し、患者さんにバッグを渡し、残薬を入れて戻してもらう活動になります。自分で戻すことのできない方への支援が今の話になると思いますが、そこへは薬剤師がカバンを持って訪問させてもらいます。ご家族の理解を得て、お薬をカバンにつめ、なぜ飲めないのかを調査させていただき、飲めるような工夫をさせてもらいます。その結果を医師と相談し、方法を検討していくという流れになります。それに伴いまして、実際に現場での薬の扱い方等、私たち自身が勉強する機会があります。9月に岐阜県の薬剤師会からその後日本薬剤師会から来てもらって勉強会をやることになっていきますので、薬をテーマとした研修会でしたら、このような形でやらせていただくことができそうです。

【事務局】 PRも含め、タグを組んで一緒に勉強させていただけるとよいですね。

【座長】 残薬を回収し、投薬している薬と残薬を照らし合わせるということですか。

【山田委員】 そのとおりです。

【座長】 大変なことですが、在宅医療の趣旨に合っており、ぴったりのテーマだと思います。

【事務局】 閉会のあいさつ